

## 平成29年度 第1回弘前市立博物館協議会会議録（要旨）

日時 平成30年2月9日（金） 午前10時00分開始 12時00分終了  
場所 弘前市民会館 管理棟2階 第一小会議室  
出席者 葛西 徹 委員長（議長） 島内 智秋 副委員長  
小嶋 義憲 委員 北原かな子 委員  
出 佳奈子 委員 武井 紀子 委員  
瀧本 壽史 委員 鹿内 葵 委員  
船越 和幸 委員 （9名）  
欠席者 広瀬 寿秀 委員 （1名）  
事務局 館長 佐々木健一 館長補佐 佐藤弘道 主幹兼学芸員 三上幸子  
運営係長 清藤留理子 （4名）

---

### 平成29年度第1回弘前市立博物館協議会

- 1 開会
  - 2 案件
    - (1) 平成28年度事業報告について
    - (2) 平成29年度事業計画並びに経過報告について
    - (3) 平成30年度事業計画について
    - (4) その他
  - 3 閉会
- 

**議長** 平成29年度第1回弘前市立博物館協議会を開催いたします。  
本日の出欠は、9名の委員が出席で1名の委員が欠席となっており、過半数の委員が出席しておりますので会議は成立します。  
では、案件の審議に入ります。（1）「平成28年度事業報告について」、事務局より説明をお願いします。

**事務局** 【配付資料に基づき、事務局より説明】

**議長** 質問や意見がありましたら、お願いします。  
**議長** 博物館実習受け入れが5名ということですが、どちらから受け入れているのですか。  
**事務局** 弘前大学、弘前学院大が主な受け入れ先でありまして、無制限に受け入れておりません。弘前市内の大学に在籍している方、もしくは弘前市内ご出身の方と内規で定めた上で、1回に5名まで年間2回までという形で、最大10名を受け入れております。

**議長** 出身者が弘前で首都圏の大学から受けることはありますか。

**事務局** かなり広い範囲で受け入れています。  
また、平成29年度に断ったケースといたしましては、県の郷土館が改修工事により休館中のため自然科学系の希望の方が来たいということがあったのですが、当博物館は人文系ですので、できないと断ったケースがあります。

**瀧本委員** 弘前大学のほうで、弘大の資料館というのがありまして、そこでの実習により学芸

員の資格がとれるということで準備を進めております。

**武井委員** 平成30年度からの予定です。

**瀧本委員** それができると少し動きも変わってくると思います。

**議長** 全国的に学芸員の不足とか言われていますので、博物館や大学の方向性というのは好ましいと思います。

**小嶋委員** 刀剣保護プロジェクトについてですが、市が日本美術刀剣保存協会青森県支部と刀剣の保護について覚書を交わしたことにより、刀剣の講演会、手入れの公開のイベントを開催したとありますが、その他たとえば刀剣の研ぎをすとか、そういう内容は入っているのですか。

**事務局** 刀剣保護プロジェクトに関しては、支部のほうに研ぎをお願いするということはありません。

**小嶋委員** 私が刀剣の研ぎについて聞いたのは、高照にある刀をいずれ研がなければならない時に、研ぐ人の人選について気をつけてほしいということです。高照の刀は、人間国宝の小野光敬さんが研いでおります。その息子さんの小野ひろしさんもかなり研いでおります。これらはかなり貴重な刀剣でありますので、刀というのはご存じのとおり、研ぎ半分といわれており、誰にでも研がせるのは非常に危険です。おそらく小野光敬さんの後継者はいない、息子さんも亡くなったとのことで、研ぎの小野派というか小野派の研ぎを再現することはほとんど不可能になりました。小野光敬さんは、古い刀をそのままの形に残すという研ぎ方です。これはよほどちゃんと調べていただかないと小野ひろしさんの門下生は、私が調べたところ何人かおりましたが、その人たちが研ぎ師になっているかもしれません。実は真守あたりはそろそろ研がなければならない状態なので、これを安易に研ぎに出すことは危険です。ですから市が刀剣の寄託を受ける時に、高照の方にも覚書を交わすとかしなければならぬと思っています。念のために発言しました。

**事務局** 実は、昨年9月に刀剣保護の指導員ということで日本美術刀剣保存協会青森県支部の中畑さんと美濃又さんに委嘱をしております。博物館の任期は3月末で、引き続き歴史館でも委嘱することになると思うのですが、内容は、学芸員の指導とかそういう部分ですので、研ぎをすとかそこまでは決めておりません。研ぎは歴史館の方で改めて考えていただくこととなります。

**小嶋委員** それに関連して、刀剣保護プロジェクトを見たのですが、刀剣の手入れの時、以前から教わってきたやり方と違う部分がありました。

**事務局** その点は、現場の対応となってきますが、4月から開館する歴史館に刀剣が移管しますので、歴史館のほうで新しい学芸員が早く専門の知識を得るよう皆で育てる対応が必要だと思っております。

**小嶋委員** どうしても、個人により長年の習慣がある方もおります。

**事務局** そのことについて十分留意いたしまして、歴史館の方にも伝えていきたいと思っております。

**小嶋委員** 寄贈資料の喜多村家の由来古文書ですが、どのようなものですか。

**事務局** 喜多村家の本家の古文書ですが、由緒書は入っておりませんでした。重要なのは建

部綾足です。建部綾足の出奔の原因となったそねからの艶書(ラブレター)それと兄が後世に書き残しました訓戒です。そのふたつについては全集等にも入っており、重要な資料だと思っております。それ以外のもの、喜多村家に関する黒印状とかそういうものもあります。資料は、いただいたまま段ボールに入った状態で、一応全部は見たのですが、写真さえ撮れない状況です。資料の整理、研究は時間をかける必要があります。これは人数をかけてもしょうがありませんので、一人で継続的にやらなければならない状況です。

**議長** 次に、案件(2)「平成29年度事業計画及び経過報告について」事務局の説明をお願いします。

**事務局** 【配付資料に基づき、事務局より説明】

**小嶋委員** 多言語の案内ですが、実際案内をして課題や実際の反応はいかがですか。

**事務局** 多言語の案内につきましては、当館に必ずしもお入りにならない外国人の方もおられますが、多言語の案内だけを持って行って喜んで帰る方が多いようなので、好評だと思います。

**小嶋委員** 出展の案内あたりも多言語ということにはならないのですか。

**事務局** 看板も設置しております。ただ、耳で聞く案内は行っていません。お金がかかり過ぎます。紙のものであれば弘大のボランティアの協力を得まして作成しますが、展覧会毎に案内を作成するのは、はっきり言って無理だと思います。内容をどうやれば正確に翻訳できるかというのは、まず理解度です。説明するにも日本史が分からないとなると、実質無理だと思います。中国語や英語が堪能で日本史に精通して内容を理解しながら解説してもらう方でないと難しいと思います。ただ、国の方でそういう事業に予算をつけますと言われてはいますが、内容が難しく手間がかかりそこまで予算をかけてやる必要があるのかと考えています。

**小嶋委員** そういう事情もあると思いますが、時代の流れとして整備していかなければならないと思います。

**事務局** たとえばインバウンドの課題として、著作権の問題があります。外国の人たちは平気で写真を撮る人が多いです。博物館といたしましては、所有権が別のもの、お借りしているものは許可できませんが、その辺はまだ手探り状態です。何でも禁止するとかいう事はありませんが、一歩ずつやるしかないと思っています。

**北原委員** 海外の博物館でも、撮影禁止は常識ですよ。

**事務局** 東京の国立博物館のようにすべて自分で所有していて、著作権の切れているところで撮影自由なのを見て、こちらに来ると、田舎だからだめなんだと言う方がいます。また、フランスでは平気だったとか言うわけです。なかなか入館者を増やすということで外国人の方との意志の疎通の面で、難しい面があります。また、外国人よりも苦情を言う日本人の方も最近増えています。

**議長** 一朝一夕にいかないものですよ。それでも少しずつ前進していますよね。

**瀧本委員** 出前講座なのですが、増えましたね。私のところでも授業の中で一コマ来てもらいました。月曜日の朝の1時間目にも拘わらず、朝早く来てもらいました。人数が少なかったのですけれども、とても良かったです。後で学生にレポートを書いてもらった

のですけれども、初めて弘前の歴史を学ぶことができたとか、こういう機会はあるようではなかったとか。郷土館にも来てもらいました。2週続けて、どちらも地元の事を勉強する機会がないということで、県外からの学生にも非常に喜ばれました。大学生って郷土の歴史を聞いてないという方が多くて、そういう意味では自習した後、個別に連れて行くとか動機付けのためになりました。もう一つ、手続きが簡単なのが良いですよ。とても簡単で、すぐ来てもらえるのと早く返事がもらえるので、来る方は大変だと思いますが、来てもらうほうはとてもありがたいです。

**島内委員** 私の大学でもお願いしようと思っていたのですが、何かとても忙しそうですね。手続きや謝礼はどうなっているのでしょうか。

**事務局** 一切謝礼は不要です。役所でやる事業ですので交通費もいりません。希望があれば可能な限り対応しています。

**島内委員** 私の大学では、地元津軽を知るということで、津軽を探るという講座を設けたので是非お願いしたいと思います。

**事務局** 市役所の広聴広報課の方に申し込んでいただければ対応できます。

**議長** 大変好評ということで、開かれた博物館という形を更に進めていただきたいと思います。学芸員が少ないところ大変ですね。

**鹿内委員** 出前講座で小学校に行くのは、授業の一貫として行っているのですか。

**事務局** 出前講座というのは、弘前の独自の事業ではありません。全国的には小中学校の利用が圧倒的に多いはずですが、10年前位に始めた時には、多数申込みがあると覚悟していたのですが、全く小中学校の申込みがないままの状態でした。この間、申込みがあり学芸員が張り切って行きました。大変好評だったと聞いています。まず、教科書には、地元の事が全然載っていません。先生がご熱心な方で、ぜひ地元の歴史を話してほしいということで、うちの方に依頼がありました。

**小嶋委員** 朝陽小学校とかの出前講座、これはいいなと思ったのは、なぜかというと小学校では、津軽の歴史を学ぶ時間がない。ですから初めてその話を聞いて、津軽にはそういう歴史があるのかというのが分かる。その機会がこの講座しか現状ではないのではと思っています。学校では習うことはありませんよ。福村と朝陽ですが、もっと増やせないものか。

**事務局** 現状の体制では、これ以上無理です。

**議長** 確かに、学校教育で郷土史関係が全くないというのは、問題がありますよね。

**小嶋委員** 文部科学省のカリキュラムでは、体験学習とかで少しはやることもあります。それは指導者のほうでも教科書に合えばやるという程度だと思います。

**議長** 先生自体、あまり分かっていないのではと思います。

**鹿内委員** 逆に遠足の一貫で、博物館に来たりするというのではないのですか。

**事務局** 是非おいで願いたいと思います。

**船越委員** それはね、博物館の側が学芸員を始め人手が足りないということで、来てもらうという仕掛けでPRするという方法を考えた方が良いのではと思います。確か小学校4年生か5年生のときに社会科で地域の事を学ぶテーマがあって、その中で地元の方の話の聞いたりするといった事を聞いたことがあります。その他に野外学習みたいなもの

があって、それに同じ市の教育委員会の小中学校の方にですね、各学校に、博物館に来ていただいて津軽の歴史の勉強をいたしましょうとPRをすればですね、出て行かなくてもたくさん来るのではないかという気がするのですが、どうでしょうか。

**事務局** 前年度から小中校長会で、是非おいでくださいとPRしております。予算が通る前ですので出せる範囲で年間行事予定も出して、校長には働きかけをしております。前年度からやらなければならないのは、次年度の予定は、前の年度に決まるからです。

**小嶋委員** やはり校長たちの認識の問題だと思います。たとえば小中校長会とか働きかけて、校長会の会議の中に、講演会をやってみせる。そうすると校長たちの認識が変わって来ると思います。

**事務局** 実は、平成28年度に常設展のリニューアルの件で20分程度活用方法を説明しました。校長先生によっては興味を示す方もおられます。やはり個別の先生の認識によります。だから興味ある先生には、割りと何回も来ていただいております。

**小嶋委員** それは分かりますが、津軽の歴史を伝えることですよ。

**事務局** 実は平成30年度から「ひろさき卍学」ということで、市内の小中学校全部でやります。小中学校合わせて9年間でやるということです。津軽の偉人とかもやりますので、その中で博物館にも来てほしいと働きかけておりますし、そういう意識は、持っていると思います。実際動くかどうかは別ですけども。いい方向にはなっていくと思います。

また、博物館だけで引き受けるのではなく、新しくできる歴史館には子供たちが集まることを前提にした会議室もありますし、バスも止まれるはずですよ。あそこを生かすことを考えております。立地を考えたら、団体とか小学校の学習にリンクしていくようなことも当然考えられるのではないかと思います。

**小嶋委員** 歴史館には、甲冑とか刀剣とかいくのですか。

**事務局** 基本的に向こうの方にすべて渡したいと思っております。

**瀧本委員** 先程お話しがあった卍学ですよ。中身についてはどういう風にするとかこれからのものになると思いますが、卍学を市の方で推進するとなると市教委が入るし、教科の中での卍学なので、しかも9年間ですよ。その中でどっかの所に博物館の見学とか博物館が入っていけるようにしてほしいと思います。あの弘前ぐらいですよ。小中学校が博物館に来ない市というのは。

**事務局** 経営計画の中でも小学生が博物館を利用している人数が、弘前は少ないという統計が出ております。その点は改善する必要があると思いますので、そういう意味ではよい機会だと思っています。

**瀧本委員** 弘前の小中学生で博物館に来たことがない子が多いですよ。青森では郷土館に小中学校が行ってる子が多いですよ。そういう意味で行く行かないの是非も含めて、なんとか卍学で、卍学の評価もいろいろあると思いますが、ぜひ中に入れてほしいと思います。それから高校とか大学も入ったほうがいいんじゃないかと思います。そういう宣伝も含めて弘前市民も含めて、小学校から大学まで続ける形での卍学を進めていただければと思います。

**事務局** 努力していきたいと思っております。

**議長** 卍学については次の課題のところでもやります。そこでまたお話をさせていただければと思います。

**島内委員** アニメの「ふらいんぐういっち」とか市内に書いている人がいるじゃないですか。「君の名は」とかのアニメで聖地巡礼とかいうのもあるじゃないですか。そういう人たちとコラボして宣伝とかできないものかと思います。うちの学生でも主体的な学びの場があるのですが、学生も「ふらいんぐういっち」巡礼ということで同じ場所で同じポーズで写真撮とって見たと聞いているので、卍学でもそういう人たちの力を借りる方法もあるのではと思います。うちの学校でもその人に書いてもらって宣伝しています。

**事務局** 当館では「いのっち」のキャラクターもあるので見に来てください。

**議長** それでは（３）「平成３０年度事業計画について」事務局の説明を求めます。

**事務局** 【配付資料に基づき、事務局より説明】

**船越委員** 平成３０年度の事業計画の予算なのですが、これから議会にかかるということですが、予算と収入の差が大きい１千８拾万円くらいになっています。過去３ヶ年を見ると１千２百万から１千４百万のマイナスということで推移してきたと思うのですが、この数値をどのように受け止められておられるのかお知らせください。それから、今後の課題についてのところなのですが、博物館が美術館もできるということで、これまでの特別企画展の実績の中で美術展の動員数がすごく多くて、美術館ができる博物館にも少なからず影響があるのではないかと思います。これに対する対策をどう講じられていくのか、この２点についてお聞きします。

**事務局** まず、展覧会の支出と収入の差額が多いということですが、公立の博物館では、収入が支出の３割程度というのは一般的であります。それで良いというわけではありません。特に４月に開設する「高岡の森弘前藩歴史館」とセットで経営改善しなければならないという意見もございます。歴史館が一年間経過した後は、どうするのかという議論は出てくる可能性はあります。当館では、今やっていることから特別差額を埋めるということは、有料観覧者数を増やすしかないのですが、なかなか一筋縄ではいかないと考えております。それから吉野町の美術館の関係ですが、完全に棲み分けはできていると思っています。吉野町は完全に現代美術ということですから、連携するという話も出ていますが、これから具体的なものができてからになると思います。

**船越委員** 新聞報道によればPFIを導入して、民間の事業者が管理運営まで含めて２０３５年までの１５年間の委託を受けたと聞いております。ですから市役所の内部で、色々議論できるのはよいのですが、そういう民間業者となると今までのやり方と違ってくるのではと心配しているところです。

**事務局** 当館でもそう考えておりますが、もう少ししたら連携も含めて、具体的に変わってくるのではと思っています。現状では、今までどおりのスタンスでやっていきたいと考えております。

**議長** そこが市民の関心が一番強いところで、美術関係は全部移ってしまうのではないかと。そのあたりが見えてほしいという気がします。

**事務局** 当館の収蔵品が美術館で必要か必要でないかの問題もあります。地元の方向けとい

うことであれば、当館では、地元で愛されている作家さんの作品を展示したいと考えています。

**出委員** 私も思うのですが、ローカルとおっしゃって、そこに力を入れるというのもそうなんですけど、ミュシャとかそういうのをやると人が入りますよね。たぶん吉野町の美術館では、そういうのを一切やらないと思います。ですから、今後もローカルをやりつつそういう特別企画展というのは、はずせないというか力を入れていただきたいと思います。やはり現代美術というと高齢の方はやっぱりあまり関心がいかないという分野で、老若男女の美術に興味を持つといった時に、ここで特別展をやる存在は大きいと感じます。

**事務局** 今後とも当館のスタンスを変えなければならないとは今のところ考えておりません。当館があつて、高岡があつて、吉野町があつてという時に当館では縄文から近現代まで扱い、高岡の方で信政公、あるいは合祀されている為信公ということで、棲み分けはできそうなのです。

吉野町の美術館に関しては、現代美術、そういったものを扱う範囲はどこまでなのか、どうゆう風に棲み分けをしていいのかこれからだと思っておりますが、現状では変える必要がないと思っております。

**北原委員** あまり気にする必要はないと思います。

**事務局** 当館のお客様は高齢で特に女性層が多いのが特徴です。市民が圧倒的にうちを支持しているのであればもっと入るはずですよ。ですから若い方々を吉野町の美術館で受け入れてもらえば、それはそれで両方栄えていいのではと思います。それから巡回展関係なのですが、当館は企画展だけで開催する材料は40年の蓄積があるのでストックしております。企画展だけだとお金はかかりません。ですが、それだけだと市民は承知してくれないと思います。

**船越委員** 私が言っているのは、本来、市立博物館の目的は何かと。原点に返ってですね、今、吉野町もできる、高岡もできる、限られた人員の中で、じゃ何ができるのかといった時にですね、やっぱり企画展だけでなく常設展を充実させるとか内部改革的なものとか必要なのでは思うのです。具体的な案というものはある訳ではありません。その中で、私は今、鬼沢地区で村づくり関係の支援を行っているのですが、その中で、宝物が一杯あるのに地元の方でさえ気が付かないでいる。やはりそういうものを拾い上げるようやっぱり歴史博物館である弘前市立博物館が、そういう地域の人達の連携によって自分達が動くのではなくてね、連携によって繋げていくような方法が新たにあると思うのですよ。

**事務局** なかなか矛盾するもので、地元でいいものをやったとしても人が入らなかつたりして、入館者を増やせということもあります。

**船越委員** 両方のジレンマもあります。何かこう人が集まるような企画展だけやっていけばよいとそういうふうな流れにいくと、私もまずいと思っております。

**北原委員** そのためにこういう協議会があると思うのです。何でもいから人を入れるという意見があるのでしたら、やっぱり私たちの意見として博物館は、学術の基礎に基づいたものであって、美術館じゃないですからね。絵を飾れば人が入るからといって企画

だけですべてを語られては困ると思います。吉野町は吉野町で独自路線だと思います。ここは培ってきた歴史と文化が基本である姿勢をずらすべきではないと思います。それで人が入らなければダメだということであれば、工夫はするけれど、だからと言って絵をかけて人を呼ぶというのは違うという気がします。東奥義塾にある奥文庫ですけど弘大研究会で一生懸命発掘していますけど、そういうのとタイアップして、義塾関係者の関心をまず呼び起こしてみるとかですね、或いは弘高の歴史系と、そういうところからアクセスするとか、そういうこともやってほしいと思います。

**事務局** 巡回展で歴史系をやっても人は、はっきりいって入りません。分かりやすい近代の日本画というのは入りますが。とりあえず年間の歳入と歳出を固めないで博物館を運営している方では、心配でしょうがありません。ある程度の金と入館者数の目途がたたないと。年間の目標値というのが立てられているのです。それをクリアしなければなりません。

**北原委員** 巡回展で入館者数を稼いでいるということですかね。

**出委員** 私は、巡回展は悪くないと思っています。もちろんこういう公共的な博物館ですからそういう地域の歴史を学ぶ機会を提供するのは当然だと思います。でもやっぱり弘前市民として、もっと外の色々なものを知りたいと思っている人は、たくさんいるわけで、その人たちの文化的な階層の関心に答えていくのが美術館、博物館の使命だと思っています。私は巡回展を軽視することはないと思っています。

**事務局** 年間2万4千人くらいは入ります。今年は2万5千人になっていますけれども。傾向としては減ってきています。ですが巡回展で1万の観覧者数をかせいでくれると、後は他の企画展が気分的に楽です。当館は狭くて常設展を撤去しないと巡回展は呼べません。その間、いらっしゃる観光客の方たちに弘前の歴史あるいは市内の小中学生が学習したいという方々たちに対しても、提供することができません。

**北原委員** うちの学生を連れてこようと思ったのですが、本来は常設展を見せたいと思ったのですが、常設展が無いときがありました。

**瀧本委員** やっぱり地域のことを考えると、前回からも言っていますが、博物館の機能として研究機能というものをどのへんでもいいのですが、やはり持つ必要があると思います。研究する時間が無いというのであれば、どっちをとるかという話になるのですが、やはり研究機能というものを何か犠牲にしても残しておかないと、企画展を何回やるのはいいと思うのですが、なんとか事務の人たちもうまく振り分けして、時間を確保していただきたいと思います。それから来年度から経営計画の目標値が観覧者数から変わるということで、そこをどう見ていくかという場合にですね、次年度からの博物館に親しみを感じる割合の目標値にそっていくためには、市民とどれだけ近づけていけるかどうかという研究活動が必要だと思います。それから人数の関係なのですが、観覧者数なのか利用者数なのか、私は観覧者数は確かにこういう考え方からするとそうなるかもしれませんが、博物館がどれだけ利用されているのか利用者数の数値が必要だと思います。博物館の持っている本来の機能というか。たとえば出前講座の利用者数とか、そういうのが利用者数になっているのです。また、資料をどれだけ貸したか、そういうことも利用者数に入ると思います。その利用者数の拡大をするためにも、



早く観覧者数から意識を変える必要があると思います。そうすれば予算の確保に繋がると思います。

**武井委員** さきほど国の文化財の方向性ということで説明されていたと思うのですが、基本的に私は歴史を専門としておりますけど、歴史資料は、活用よりも保存に主眼を置いて進めていただけたらと個人的には思っています。博物館自体の役割が、これからどういう風に立ち位置として位置づけて行くかと考えた場合、確かに企画展とか見てもらう、来てもらうのも大切ですが、地域で様々な文化財を持っている機関や個人も含めて、そうしたものの情報だけでも集めて公開するという、地域の文化財のメガバンク的役割というのも非常に重要だと考えております。さきほど瀧本先生のお話にも利用という話がありましたけれども、他の団体から弘前の文化財を借りたいとか、調査に行きたいとか、その件数も重要だと考えております。現在、博物館の収蔵物は、市のHPでは目録という形で公表していただいておりますが、注視していくことが大事だと考えています。

**北原委員** 卍学というのができるということですが、小中学校の生徒が博物館を見学するとかコースとして考えられているのでしょうか。少子化ですので、学校単位で来てもらってもたいした数にならないと思います。昔みたいに大規模ではないので。そうやってくると、なるべく学校と連携を取って来てもらうのが入館者も増やす上で大事だと思います。

**事務局** そういう風に動いています。一部の学校では毎年来ていただいているところもあります。すべての学校ではなかなかそうはいかなくて、学校にはいろいろとPRしてはいますが、なかなかそこまでは進んでいないという感じもあります。やはり卍学で取り上げてもらえれば、利用も増えると思います。

**小嶋委員** 人数を増やすには、学校のPTAの関係者に働きかけることが一番です。PTAの総会あたりでそういう話をする。そうするとかなりの人数になると思います。私も学校で話もしましたけれども、PTAの中で歴代藩主の経緯とか、あるいは地域の歴史に関するお話をするとか、そうするとかなり面白い、いわゆる歴史や地域に関して興味や歴史に関心を持つ方が多くなってくると思います。ひいては博物館の入館者増に繋がるかもしれないと思います。PTAを大いに活用したほうが良いと思います。校長とPTAが大事です。

**北原委員** 子どもたちの目を広げさせるために、若い子どもたちに話すことが大事です。

**議長** 博物館の全般的な利用という点でお話しがあったのですが、それに関して気にとめていただければと思います。

**事務局** 博物館といたしましても、資料の収集、保管、保存そして展示、研究ということが、博物館の大きな柱であると思っています。その中で研究が進んでいない状況です。来年度からは、学芸員が採用され3名体制になることによって解消されていくと思います。退職する学芸員も再任用ということであると4人体制になることも予想されます。そういう意味で研究も進めて行きたいと思っておりますし、利用に関してやはり卍学が始まりますから、こちらからも学校に働きかけて行ってPRし、来館者数を増やしていきたいと思っています。数値的にも全国平均並みに来ていただくようにしたいと考えて

います。そこが一番の課題だと思っています。

**出委員** よくわからないのですけれども、校長先生が集まっている会で、こういう話をする機会はあるのですか。

**事務局** 小中学校長会には、私も館長として出席し説明しております。小中学校長会は、年5回程度ありますので、いつでも説明することができます。

**出委員** 歴史の話をするのも大事ですけども、博物館とか美術館がなぜ公共的に大事なのかと。これを利用したら、こういう面白いことがあるか。もっと根幹的なお話をすることも大事だと思います。

**議長** ねふた展が平成30年度に予定されていますけれども、関係者としてはとても喜ばしく思っています。ねふた展をこれまで見てますと、美術と、美術的な背景という視点で展示なさっていると思うのですが、一つには地域との関わりといいですか、コミュニティといいですか、そういう視点がないと思います。たとえば原爆資料館に広島カープがなぜあるのか。あるいは福岡の市立博物館では、金印と同じ扱いで西鉄ライオンズがなぜあるのか。今はソフトバンクですけど。その点は地域を意識しているんですよね。そういったコミュニティという視点も取り入れていただければと思います。

**事務局** 具体的にありますか。ご教授いただければ助かりますけれど。

**議長** 今は具体的なものは、考えておりません。難しいところですが。

**事務局** そういう視点も大事ですから検討してみたいと思います。

**瀧本委員** 郷土歴史シリーズNo.3「竹森節堂ねふた絵草稿」が大変売れているじゃないですか。このすごいところは、最後に出典が出ているのですよ。絵の本になっている出典を整理して出していることがすばらしいことです。これは博物館でなければできない仕事です。学芸員でなければできないことです。すごくいいです。

**議長** TVでねふたの解説をした時にその話もしたんですよ。

**事務局** 節堂さんのご遺族にも了解を得ました。満2年くらいで著作権50年もクリアになる予定です。それを作った時点ではTPPがどうなるかわからなかったこともあり、70年になったら絶対出せなくなると思ったものですから、こういう形で刊行させていただきました。

**議長** 案件(4)「その他について」事務局のほうで何かありますか。

**事務局** 特にありません。

**議長** 皆さん、何かありませんか。

**議長** ないようなので、これで案件の審議について終わります。

**議長** 本日は活発なご意見がありました。皆様ありがとうございました。

これで平成29年度第1回弘前市立博物館協議会を終了します。

---

**事務局** 長時間に渡ってありがとうございました。なお、委員名簿と本日の会議の会議録につきましては、市ホームページに掲載されますので、ご承知置きください。